

「米国のパリ協定離脱とイノベーションによる地球温暖化対策」

日時：令和元年10月3日（木）午後2時～4時

会場：金沢大学自然科学大講義棟 大講義室B



ジョセフ・シュメルザイス

1980 American School in Japan 卒業

1988 MBA from Harvard Business School

2018.2- 在日米国大使館首席補佐官

開催趣旨：

なぜ、アメリカはパリ協定を離脱したか。離脱後の地球温暖化対策にどう取り組むか。シュメルザイス首席補佐官の話題提供を起点に、イノベーションによる地球温暖化対策の必要性和可能性を展望する。特に、規制による環境問題解決でなく、経済的視点に基づいたイノベーションによる環境問題解決について議論する。

金沢大学は、能登スーパーサイトの大気観測、煤塵フィルター・スクラバー、フライアッシュの活用など大気汚染に関わる先進的技術・特許を有している。

地球温暖化、大気汚染に影響を及ぼさない新たな物質循環の技術革新による環境に優しいエネルギーシステムを日米が共同開発する可能性について意見交換する。

金沢大学は、マルチステークホルダーが参加するラウンドテーブルを主催し、日本が米国と協力して取り組む地球環境課題解決策のイノベーションについて提案する。

首席補佐官は、日本語で話題提供される。

ラウンドテーブル：

このラウンドテーブルは、出席者がそれぞれの立場から、それぞれの利益を念頭におきつつ、地球規模で進行する環境と経済の課題解決について意見を出し合い、互いに協力して新たな枠組みや事業・産業を創出することを目的とする。

このラウンドテーブルには、研究者、企業、行政など、新たな枠組みと産業創出を目指すステークホルダーが参加する。また、地球規模の課題解決やラウンドテーブルによる合意形成や産業創出に高い関心を持った学生の参加を呼びかける。